

さぎさか まさみ

向坂正美さんのプロフィール（認定者No.6）

（NPO 法人史料データ保存ネットワーク 理事長）

昭和 23 年（1948 年）京都市生まれ（現在、右京区在住）。

私が向坂さんにお出会ったのは、確か 3 年ほど前。某一般財団法人主催の、セカンドライフ対談イベントでの、対談のお相手。私が会場のエレベーター前で不安そうにしていたところを、優しくお声掛けくださったのが、向坂さん。第一印象が「なんと、ダンディー！」。訊けば、あの「姉川の合戦」で、徳川家の家臣として戦功を上げた、向坂 3 兄弟の嫡流で 36 代目だとか。上品で、物腰柔らかく誰にでも優しいジェントルマンに、城主でもあった戦国武将の血が流れていると思うと、ちょっと不思議な気がします。

また、向坂さんは、小学生の頃からラジオやアマチュア無線にハマり、京都・寺町の電器街通いが大好きだったとか。どちらかといえば、“理系”で、国語や社会、特に歴史が嫌いなお方が、2008 年市井の古文書等の調査・保存をミッションとする任意団体「史料データ保存ネットワーク」（2010 年 2 月 NPO 法人化）を立ち上げられたのも、何とも不思議。この活動を始めるキッカケは、滋賀県・長浜の「姉川の合戦図屏風」（福井県立博物館所蔵）に描かれた先祖について、父親がずっと調べていたが、60 歳過ぎで亡くなったので、そのあとを引き継ぎ調べてみよう。そのためもあって、長年勤めた三洋電機を 58 歳（2007 年）で退職を決意。その後即、行動に移されたところが凄い！色々な分野の会合に出向き、2 年間でなんと 2000 人の人脈づくり！私が個人的に理想とする、アクティブシニアの秘密は、どうやらここらあたりに。

「このままでは古文書がなくなる！何とかしなければ。単に古文書を楽しむのではなく、保存する NPO がない！」との危機感を新聞やマスコミが取り上げ、“同志”が集まったとのこと。今では地元右京区にとどまらず伏見区でも活動の場を広げ、「まちおこし」としてもその存在感は増すばかりです。他にも多くの団体に所属し、今や押しも押されもしない、「公共人材」です。

さて、次の目標は？と尋ねると、ズバリ「古文書保存条例」づくり、だとか。2019 年秋には京都で国際博物館会議があり、また、文化庁の京都移転など、地方創生の気運を一層高めたいそうです。やっぱり、目線が高いですね！（笑）



2017. 5. 12 松尾 清嗣